

THOUGHT LEADERS

「反アベノミクス論」の
落とし穴

MONEY & INVESTMENT

成功する社長は
「白い嘘」をつく

FORBES ARCHIVE

高度成長期をリードした
商社魂

FORBES LIFE

ニッポンの価値を
再発見しよう!

2014

12

No.05

定価890円

Forbes JAPAN

AMERICA'S 50 RICHEST FAMILIES

ファミリービジネスに学ぶ
「300年輝き続ける企業」

メロン家を築いた伝統と革新
かくして名門ビール会社はすべてを失った
名家エルメスの系譜を継ぐ者

COVER STORY

堀 義人

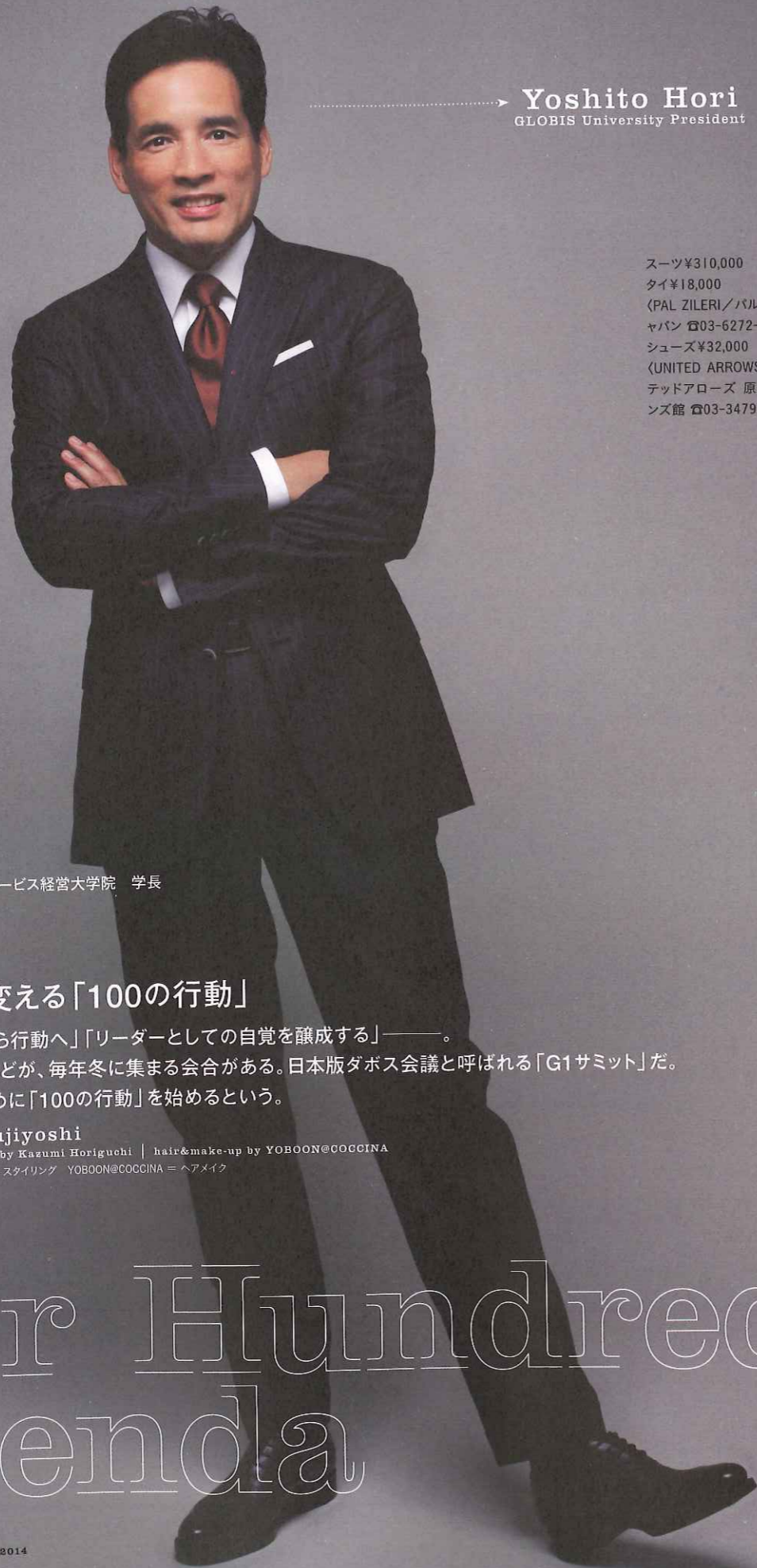
グロービス経営大学院学長

日本を変える
「100の行動」

「独創的ビジネスモデル」の研究

コトラーの提言・ビジネスを「自己実現」にフォーカスせよ / 三木谷浩史・これが「楽天流・成功の方程式」だ
米国最先端!「シェア・エコノミー」とは何か / 「レンタルドレス界のアマゾン」全米席卷の秘訣
「ファストフード型病院」逆転の発想とは

CREATIVE BUSINESS MODELING



→ Yoshito Hori
GLOBIS University President

スーツ ¥310,000
タイ ¥18,000
(PAL ZILERI / パル ジレリ ジ
ャパン ☎03-6272-6238)
シューズ ¥32,000
(UNITED ARROWS / ユナイ
テッドアローズ 原宿本店 メ
ンズ館 ☎03-3479-8180)

COVER STORY

堀 義人 グロービス経営大学院 学長

堀 義人 日本を変える「100の行動」

「批判より提案を」「思想から行動へ」「リーダーとしての自覚を醸成する」——。政界、財界、学界、文化人などが、毎年冬に集まる会合がある。日本版ダボス会議と呼ばれる「G1サミット」だ。討論に終わらず、変革のために「100の行動」を始めるという。

text by Masaharu Fujiyoshi
photographs by Ko Sasaki | styling by Kazumi Horiguchi | hair&make-up by YOBOON@COCCINA
藤吉雅春 = 文 佐々木 康 = 写真 堀口和貞 = スタイリング YOBOON@COCCINA = ヘアメイク

Our Hundred Agenda

これは静かなる革命です。

「G1サミット」をご存じだろうか。2009年、冬景色の福島県アルツ磐梯で1回目が開かれて以来、毎年、地方のリゾート施設で開催されているが、一般メディアではほとんど報じられていないため、国民に広く認識されているわけではない。しかし、「日本版ダボス会議」と呼ばれている通り、参加者の顔ぶれからいったい何が話されているのか、興味をもたない者はいないだろう。

iPS細胞の山中伸弥はノーベル賞を受賞する前からG1のボードメンバーであり、参加者には、安倍晋三、現役閣僚、与野党の政治家、霞が関の官僚、民間からは若手起業家に、名だたる企業の経営者たち、学者など大物から新進気鋭までがそろそろ。文化人やオリンピック選手もいて、第一線で活動中の人ばかりだ。しかし、多忙を極める人々が、なぜここに集うのだろうか。

ボードメンバーの俳優・辰巳琢郎に聞くと、ギャランティが支払われているわけではないという。「皆さん、参加費を納めています。交通費も宿泊費ももちろん自前。お金を払ってでも参加したい人はたくさんいますが、招待されないと参加できませんし、かなり厳しく選抜しています」。

辰巳自身は、参加する理由をこう話す。

「日本をよくするのは世代の責務だし、それには集団の力が必要です。僕はG1の分科会で文化を中心に担当しているのですが、前回の石垣島でのG1にゲスト参加されたベネッセコーポレーションの福武総一郎さんの『経済は文化のしもべである』という言葉が心に残っています。経済がないと文化が育たないのは事実ですが、文化のない経済発展など下の下。国づくりの両輪です。よい国をつくるためには、大きなビジョンが必要で、議論しながら行動にかえていく。それが、G1です。文化を生む力をどう醸成して世界に発信していくか、本来なら文化人が集まってアクションを起こすべきですが、文化人は一匹狼が多く、集団で動くことは本当に苦手。しかし、G1というプラットフォームを利用することにより、さまざまな思いをかたちにするようになるはず」

G1の中から「100の行動」というプロジェクトが動きだしており、日本の100の課題を見つけて、解決していくという。

まるで政府主催のような大がかりな取り組みだが、民間団体の取り組みに官僚を含めて政権内の人間までもが参加するのはどうしてだろうか。その理由は、G1サミットが生まれたプロセスに関係あるだろう。

安倍内閣で官房副長官を務める世耕弘成は、辰巳と同じく創設時からのボードメンバーで、「100の行動」に参加している。政策提言を行う民間シンクタンクや社会変革を目指す民間団体と何が違うのか。世耕が言う。「立派な提言や答案を書くのは簡単なんです。問題は実行すること。実現させなければ意味がない。『100の行動』に期待しているのは、これまで政権内で仕事をした人たちが参画している点です。提言を実行しようとする、不利益を被る人たちがいるし、反発する人もいます。政治家はどこに障壁があるかを知っています。『そんなのは政治家が突破してよ』と、政治家だけに期待されても現実には合意形成は難しく、簡単にはいかないのです。だから、私は問いかけています。『政治の力だけではなく、民間はどう動くんですか。世論を動かすには、政治の力だけでなく、民間の皆さんの力も必要なんです』と」

20年前だったら、こんな仕掛けをつくる必要はなかっただろう。政治は、プロレスのように役割が決まっていて、批判する人と批判される人が舞台の上で役割を演じる一方、社会システムはうまく動き続けていた。

しかし、経済が右肩上がりではなくなると、合意形成は困難になり、停滞の時代になっ

G1にはすべて英語で討論するG1 GLOBALや、日本を代表する企業のトップたちが目指すべき国の姿を問うG1経営者会議などがある。

